



かどや通信

第35号

発行日：令和元年11月吉日

発行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

お陰様！ 入館者四万人を突破！

鳥羽大庄屋かどやの入館者が九月二十九日に四万人を突破した。

四万人目のお客様は、奈良市から来られた諏訪さん（写真右）で、かどや訪問は三回目のリピーターだ。同日開催されたかどや屋下がりコンサートの出演バンド「グラスホッパー」の仲間で、前回のコンサートでは演奏者として参加していた。今回は、友人とコンサートの応援に来て、なんと記念すべき四万人目となったのである。

四万人目の報告は、コンサートの休憩時間を利用して会場で行ったところ、諏訪さんは「驚きました！



なんだか申し訳ないです」と恐縮しきりだったが、バンド仲間からは「よかったね！」と声がかかった。諏訪さんには記念品として、かどやのネーム入りTシャツや地元の銘菓シエルレー又等が贈られた。

平成二十五年五月一日に一般公開が始まったかどやは、平成二十七年五月二日に入館者一万人目を迎え、二万人目は平成二十八年十一月五日、三万人目は平成三十年三月二十六日と、一万人突破には二年を要したものの、その後は約一年半毎に記録を伸ばしている。

公開当初からのスタッフは「コンサート等のイベントをはじめ、手芸や料理、茶道、川柳等の各種教室が充実してきており、人や情報の交流の場として、幅広く活用していただけるようになってきている結果だと嬉しく思います。これからもより多くの方々に足を運んでいただけるよう、スタッフ一同協力しあって頑張ります」と話している。

またまた鳥羽小生がやって来た！

鳥羽小学校の五年生二十九人が十月九日、授業の一環としてかどやにやって来た。

同校の三年生は毎年、かどやに来て、残されている昔の生活道具を通



して当時の暮らしを学んでいるが、今回の五年生は鳥羽の良さを再発見するためにやって来たのだ。

そもそもは、移住・定住を推進している鳥羽市の職員が、鳥羽小学校で出前授業を行い、「人口減少が続いているが、市内には移住希望者に好評のなかまち（かどやを含む鳥羽三丁目、四丁目界隈）がある」と話したところ、「どっという魅力なのか実際に見てみたい」という声上がり、授業を見学に来ていた校長先生に生徒たちが直訴して実現したという。

当日は、三班に分かれて鳥羽なかまち会の加盟店舗等を訪問し、かどやにもやって来た。スタッフがかどやの成り立ちや建物の紹介をしたところ、生徒からはなかまちのかどやの役割等について質問があり、生徒たちの鳥羽への思いを頼もしく感じたそう。

また後日、かどやでの感想を添えた礼状が届き、事務所の壁に大切に貼られている。

茶道教室大活躍！ おもてなしの心で国際親善

かどやでは毎月第二水曜日の午後、「簡単茶道教室」が開催され、いっちゃんこと裏千家の千草示石先生と一弟子のゆかりさんが茶道の手ほどきをしている。練習の成果が実りつつあり、かどやを訪れる海外のお客様へのおもてなしに大奮闘している。

豪華客船のお客様、大満足！

世界最大級の豪華客船「ダイヤモンドプリンセス号」が今年、これまでに三回、鳥羽港に寄港した。毎回約一千五百人のお客様が乗船しているが、港からかどや近辺までは徒歩で三十分程かかるため、訪問客は左程多くはない。それでも、四月四日には三十七人、八月二十四日は三十六人、九月二十四日は三十二人が立ち寄ってくれた。かどやの「アピールポイント」は、約二百年前の家屋と日本庭園だが、訪問客のうち、四月は十五人、八月は二十七人、九月には十九人が日本の伝統文化の茶道を体験した。

「ここで活躍するのが「簡単茶道教室」のメンバーだ。千草先生と一弟子

子のゆかりさんに加え、常連の生徒さん達五人が毎回和服姿でお客様をお迎えしている。

「ここで」の体験は、抹茶を飲んでいただくことだが、おもてなしの心あふれる千草先生は時間の許す限り、希望するお客様にはお点前(抹茶を点てる主人方の作法)も伝授している。そのためピーク時には、お客様をお待たせすることもあるが、茶道という日本文化をしっかりと体験することができたお客様たちは、大満足の様子だった。

サンタバーバラ使節団を歓迎

鳥羽市はアメリカ・西海岸のカリフォルニア州サンタバーバラ市と昭和四十一年(1966年)に姉妹都市提携を結び、以来様々な交流を続けてきている。

十一月六日には、同市から十三人の使節団が来日し、伊勢神宮を参拝後、かどやで催された茶会に参加した。「ここで」も千草先生率いる茶道教室のメンバーが活躍した。お点前を披露したのは、十一年間日本で暮らし、現在もサンタバーバラ市で茶道を習っている使節団の方だったが、水屋(茶室の隣室)で茶の湯の用意をす



る所では茶道教室のメンバーが準備に奔走した。

さらに、千草先生は「せつかくお茶を飲んでもらうなら、和服の方が記念になるのでは」と半襟を付けた和服まで準備した。一行は三十分遅れでかどやに到着したが、希望者には着付けの心得のあるメンバーが着替えを手伝い、日本情緒溢れる雰囲気の中で茶道を体験してもらった。

余談ではあるが、「ここで」通訳として活躍したのは、鳥羽商船学校に留学しているマレーシアの学生だった。同校にはクラブ活動の茶道部があり、千草先生は「ここで」も茶道を教える関係で、助っ人として参加してくれたのだ。来日して三年になるとい

う彼は、日本語も英語も流暢に操っていた。そんな



なこんなで、この日のかどやは国際色に溢れ、国際交流が実現していた。

継続は力！

かどやでは現在、毎月定期的に行われている教室が十一に上る。その中で、簡単茶道教室は平成一十五年十月に開講したかどや最古の教室である。一般公開してまもないある日、千草先生がかどやにふらりと現れ「私でお役に立つなら茶道教室をさせてもらいましょうか」で始まり、以後色々な方々が練習に通ってくれた。

しかし、生徒さんはなかなか定着せず、一弟子のゆかりさんだけの時も多くあった。毎回たくさんの茶道具を自宅から運んで準備するだけでも大変な労力を要するので心苦しかったが、そんな時も「自分の練習になるので気にせんといてください」とこやかだった。

参加者数には波があったが、人数に左右されることなく毎回地道に開催していたところ、昨年からは固定の生徒さんが増え始めた。外国の方々がかどやに来られる機会も増えたが、生徒さんたちにとっても練習の成果を披露する絶好のチャンスと、毎回和服姿で対応してくれている。

その活躍を見るたびに、参加者ゼロにもたじろぐことなく継続してきた力の結晶を見る思いがした。

**秋のコンサートも魅力いっぱい！
匠巻は帰って来たグラスホッパー**

秋のかどや風下がりコンサートも、ジャズにブルークラス、フォークと多彩だった。コンサートは、午後に行うのが原則だが、今秋は、ナイトセッションが二度も行われた。

《ジャズで月と星を歌う》

九月十五日は「かどやムーンライトコンサート」中秋の名月に寄せて」と題して、午後六時半から八時に行われた。

出演は、かどやではお馴染みのスパージャズトリオ(テナーサククス宮崎義明さん、ベース桜井理さん、キーボード下司恭子さん)とボーカルのM-I-N-A-M-Iさんで、「見上げてくらん夜の星を」「月の砂漠」「ムーンリバー」「Fly me to the moon」



「星に願いを」等、名月にちなみ月と星がテーマの曲を中心に、ご機嫌な演奏を繰り

広げてくれた。

会場には雨天でも月見が出来るようにとダンボールで作った月が飾られ、床の間には月見だんごトスキも準備されており、参加者は秋の夜ならではの雰囲気を楽しんだ。

《青春のブルークラスに大喝采》

第八十九回かどや風下がりコンサート「ブルークラスを聴こう」が九月二十九日に行われ、関西で活躍するグラスホッパーが出演した。

同バンドは、設立四十五年の老舗バンドで、平成二十九年にリーダーの川本さんがたまたまかどやに見学に来られたのが縁で、同年十月にかどやでコンサートを行い、大好評だった。昨年十月にも出演予定だったが、直前にリーダーの骨折で、急遽中止となった。再演は無理かと諦めかけていたところ「リハビリの甲斐あって回復しました」との連絡があり、再演が実現した。

今回はメンバーのスケジュールの関係で四人編成だったが、今回はギター、バイオリン、バンジョーに加えて、ベースとマンダリンの五人編成で前回同様、老舗バンドならではの高度な演奏テクニックと、リーダーの軽妙なトークで会場は終始、



性のお客様が多いのだが、今回は青春時代にブルークラスにはまっていたという男性客が多かった。また、若い頃にアメリカを放浪したというお客様もあり、休憩時間には一時期アメリカでブルークラスの修行をしたリーダーと、当時の話で盛り上がっていた。

さらに、コンサート終了後には、伊勢市でブルークラスのバンド活動を

しているお客様と意気投合し急遽ジャムセッションを行う等、楽しい時間が長く続いた。



飛び入りジャムセッションで盛大上がり

《なかもちマーケットと連動》

第九十回のかどやコンサートは「かどや竹あかりコンサート」秋の夜長はフォークで「ラララ」と題して、午後五時四十分から八時までのナイトセッションとなった。

これは、鳥羽なかもち会(かどやを含む三丁目〜四丁目界隈の店舗等が加盟)が主催する第二十五回なかもちマーケット「なかもちサンセット」夕暮れに鐘が鳴るなり西念寺」が午後四時から開催されるため、盛り上げの一環としてコンサート

の時間を変更したからである。五時には西念寺の境内と参道に竹あかりが点灯し、多くの人がなかもちを散策した。かどやは四時から手作り五平餅やさつま芋ケーキをはじめ、味こはん、ちらし寿司、赤飯等も販売した。

コンサートは、かどやゼンザース」、「Loveちゃん」、「AQUOA(あわさん)、愛風さんなどお馴染みのバンドと、初登場のカメちゃん、二胡の濱瀬さんも加わり、にぎやかなコンサートとなった。



取りを務めた愛風さんが会場を魅了

紹刺しとリース
 優美な作品群に讃嘆の声

かどやでは月替わりで様々なジャンルの展示を行っているが、七月と十月には繊細で優美な作品が並び、見学者のため息を誘った。

《一針一針思いを込めて》

七月は「紹刺し 伊勢彩いち」と題し、西川佐恵子さんの作品展が開かれた。紹刺しは、夏用の和服地「紹」から派生した専用の布に絹やうるし、金糸等を用いて刺繍をしていく技法で、千三百年の歴史を持つ日本の伝統文化である。細かな布の織目に一針一針、針を刺していく繊細な作業で、平安時代には貴族が、江戸時代には公卿たちの趣味として珍重されていたが、今では継承者も少なくなっている。



雅な作品に魅せられた西川さんは、2009年から制作活動を開始し、現在は講座や教室等を通じて普及に努めている。かどやでは、帯や着物、バッグ、財布、ふくさ入れ等を展示。見学者は、優雅で繊細な作品群にただただ見とれていた。

《やさしさを溢れる心使い》

十月には、志摩市出身の秋田亜友美さんが制作したプリザーブドフラワーを使ったリース等二十五点が展示された。プリザーブドフラワーは、長期保存出来るよう特殊な液に浸してから乾燥させたもので、秋田さんの作品は、見ているだけで心が癒されるようなやさしい色使いが特長だ。「見ていると、やさしい気持ちになれます」と、作品の前にはびたたず見学者も多かった。

リース作りを始めたのは三年前からだというが、作品の素晴らしさはもちろん、ディスプレイにも凝っていて、かどやでの展示のためにランプを調達し、骨董品の外国語の古本等も並べた。やさしい香りの芳香剤を置き、自分で選んだクラシック音楽を流すなど、控えぬながら細部にわたって秋田さんの優しさが光る演出がなされていた。

また展示期間中に三回リース作り教室を開いたが、根を詰めて行う作業の疲れを癒すため、本格的な手作りシフォンケーキまで準備しており、その心使いにも参加者は感動していた。



◆◆◆ 貸部屋の案内 ◆◆◆
 かどやを有効にご利用いただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などに活用ください。詳細は、かどやへ。
 電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 平成31年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで平成30年度は351名の方にご登録いただきましたが、31年度は11月15日現在で292名と、昨年より約60名少ないのが現状です。一人でも多くの方々に楽しんでいただけるよう、スタッフ一同精進してまいりますので、登録がまだの方は是非ご登録くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成31年度(平成31年4月1日～令和2年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751